

目標設定と体験学習サイクルで生徒のチャレンジを引き出す

山口裕之（宮城県立光明支援学校・高等部）

キーワード：チャレンジ，成功体験，自己効力感，主体性を引き出す 14 の手だて

本校高等部では、昨年度まで 2 年間、「生徒のチャレンジを引き出す授業づくり」という研究主題で、授業改善に取り組みました。授業展開を、体験学習サイクルの視点から「目標設定」→「チャレンジ」→「振り返り」という進め方にし、授業の中で生徒が学習課題に自らチャレンジする場面を用意して、たくさんの成功体験を得られるようにしました。2 年間の取り組みで生徒や教師がどう変化したかを報告します。

【本校の 3・11】

午前中に卒業式があり、地震発生時刻には全員の児童生徒が下校していました。学校は仙台市内の北西部にあり、津波の被害は受けませんでした。食堂やプレハブ教室の天井が落ち、タイル敷きの中庭など数カ所で地面の陥没が発生しました。在籍児童生徒 304 名全員の安否確認に 5 日間かかりました。学区内に津波の被災地はなく、ほとんどの生徒は自宅で生活を続けることができました。



【高等部生徒会の被災地支援】

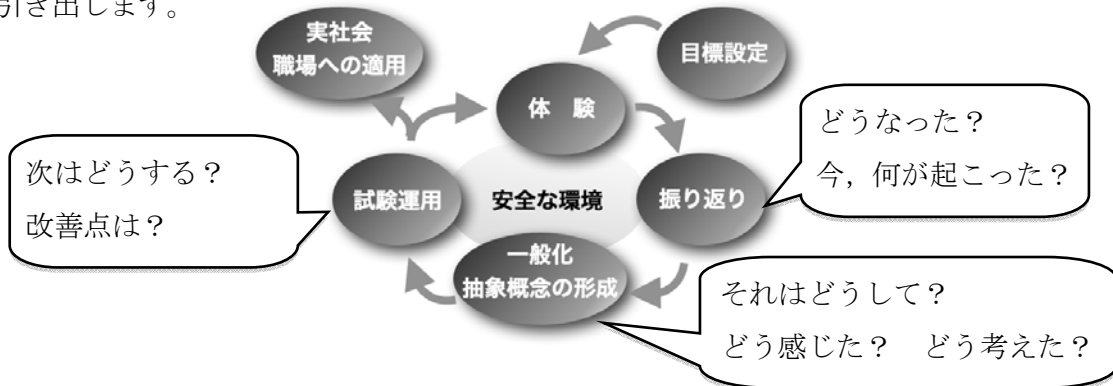
5 月の選挙で生徒会の新役員が決まりました。その生徒会役員から、「私たちも被災地を支援したい」という相談がありました。これから暑くなる時期だったので、津波被災地にある 3 つの支援学校に、うちわと短冊のメッセージを送ることになりました。うちわとメッセージは高等部の生徒全員で作りました。発送準備が整ったときに生徒会役員たちが見せたいい表情が忘れられません。

「生徒のチャレンジを引き出す授業づくり」に 2 年間取り組む過程で、生徒会活動も活発になり、このように生徒たちから何かをしたいという声があがるようになってきました。



【体験学習サイクル】

体験学習サイクルは、体験から学びを引き出し、行動を変容させていくためのプロセスです。授業そのものや、授業の中で行うチャレンジを、ひとつの「体験」ととらえて、そこから学びを引き出します。



【チャレンジとは】

ここで言う「チャレンジ」とは、授業の中で生徒が**成功体験を得るための場面設定**です。しかも、成功するかどうかやってみなければ分からないような活動のことです。成功が約束された課題は「チャレンジ」にはなりません。逆に、明らかに失敗しそうな課題も「チャレンジ」にはなりません。もし失敗したときでも、体験学習サイクルを回す中で次第に成功に近づいて、やがて成功体験に結びつけることができるものを「チャレンジ」ととらえています。

【チャレンジを引き出す授業の例】

音楽

ボディ・パーカッションで表現しよう
「We Will Rock You」の曲にクラスごとに振りを付けて練習し、学年の発表会で披露→1位のクラスは全校に発表。

生活

お弁当のおにぎりを自分でつくろう
校外学習（泉ヶ岳登山）に向けて、おにぎりづくりの学習を繰り返し行い、登山当日のおにぎりを自分で握ってくる。

作業学習

写真フレームをピカピカに仕上げよう
木枠をやすりで磨いて見本のように完璧に仕上げる。チームで互いに仕上がりを確認して修正しながら完成させる。

体育

いろんな種目で自分を高めよう
縄跳びやボールキャッチなど数種類の種目と達成基準が用意され、より上のレベルをめざして繰り返し練習する。

日常生活の指導

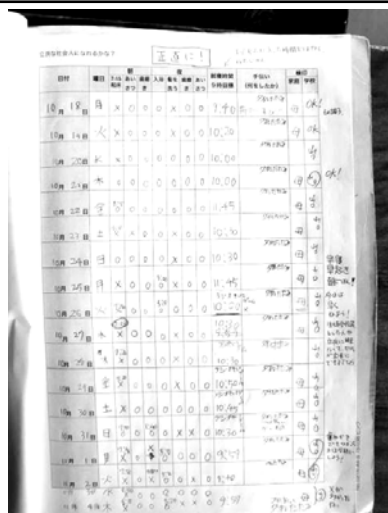
「おかわり券」をゲットしよう
朝の挨拶をしたら「おか」、時間内に着替えて「わり」、マラソンをサボらなければ「券」がもらえる→3枚で「おかわり券」



日常生活の指導

めざせ立派な社会人

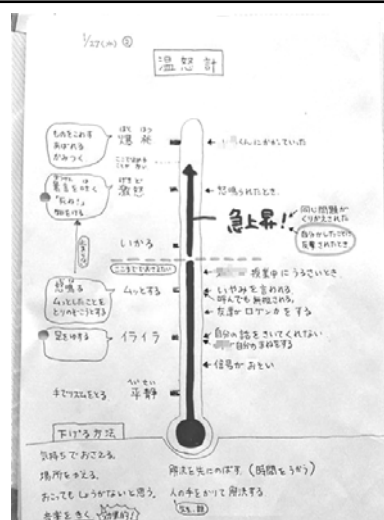
家庭でのあいさつや衛生習慣をつけるために、記録表に○×を記入し、登校後に記録表を元に振り返りを行う。



特別指導

感情のコントロールをしよう

友達に暴力をふるってしまった生徒に、温怒計というアクティビティで振り返りを行い、感情コントロールを練習。



特別活動

プリント係を一人で務めよう

職員室からクラスの配布物を持ってくる仕事を、iPod touch の Voice4u を使って自力でやり遂げる。



【主体性を引き出す 14 の手だて】

生徒のチャレンジをうまく引き出した事例に共通してあった手だてをまとめてみたら、14の手だてが浮かび上がりました。

	主体性を引き出す 14 の手だて	補足(例)
1	生徒に目標をしっかりとらせる	具体的で適切な難易度／途中経過が分かるしくみ／集団で目標設定 ほか
2	生徒が記録をつける	生活記録／マラソン記録／振り返り用紙 ほか
3	生徒が選択する	活動内容／教材 ほか
4	生徒に責任をもたせる	役割分担／自分専用の道具 ほか
5	同じ活動を繰り返す(反復・復習)	1つの授業の中で繰り返し／短期間の繰り返し／長期間の繰り返し／発展的繰り返し ほか
6	生徒同士の学び合いの場を設定する	他の生徒が学んでいることを観察／他の生徒をモデルに／刺激しあい競いあう場面／励ましあい認めあう場面／生徒が互いに評価する ほか

7	生徒が学んだことを発表する場を設定する	友達の前で発表／お客さんの前で発表／オーディション ほか
8	生徒の特性や興味・関心を生かす	生徒の興味・関心／ゲーム感覚／生徒のプライド ほか
9	段階的に指導する(スモールステップ)	大→小, 1つ→複数, 教師のアシストを減らしていく ほか
10	視覚支援を欠かさない	写真／ビデオ／アシスト表／○×カード／ワークシステム ほか
11	体験を見守り, 成功も失敗もすくりに振り返る	生徒の体験を見守り支援を与えすぎない／失敗も体験させ振り返りに生かす ほか
12	行動の直後に正の強化子が与えられる環境	友達からの賞賛／自尊心をくすぐる言葉／トークン ほか
13	安心できる環境	安心できる空間・人／自分で選択できる安心 ほか
14	保護者や地域を巻き込む	情報の共有／家庭学習の活用／学校で学んだことを家庭でも生かす ほか

【生徒や教師はどう変わったか】

<生徒の変化>

研究を始めた当初は、自分に自信がなく、学習課題を避けようとしたり、他者にかかわろうとしない生徒たちが目につきました。そのような生徒たちが自信を持ち、自分も役割を果たすことができるという自己効力感を高めていけるようにと考えたのが、このチャレンジに取り組む学習です。この2年で生徒たちの様子は大きく変化しました。自分からあいさつのできる生徒が増え、学習や係活動に自信を持って取り組む生徒が増えています。自分の失敗やできないところも素直に認め、「明日はこうがんばりたい」と前向きに受け止めることができる生徒も増えました。同時に生徒同士のかかわりも多くなり、集団としてのまとまりや連帯感が感じられるようになりました。学習課題や学習の場、そして学習集団といった自分を取りまく周囲の環境に積極的に参加・関与しようとする態度が多くの子に見られるようになり、生徒の主体性が高まったと感じています。

<教師（授業）の変化>

教師の変化もいろいろあり、それにもなつて授業も変わっていきました。その中で、自主公開研究会の参観授業で多くの参観者が指摘したことは、

- ・教師からの指示が少ない。
- ・活動の準備の段階から生徒が活躍していて教師が目立たない。

ということでした。教師の指示や支援で生徒が動かされる授業ではなく、生徒一人一人が見通しをもって学習に参加する授業に変わってきたのです。今までは教師の過剰な指示や支援が、生徒の学びを妨げるといったことがあったのだと思います。教師の頭の中に、体験学習サイクルを回すという意識と、生徒のチャレンジを引き出すという目的があったために、そのような過剰な指示や支援が、次第にそぎ落とされていったのでしよう。